

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務 企画部	進藤隆男	地域 企画課	企画・ 十和田 八幡平 観光班	成田 斉	0186-22- 0457	十和田八幡平国立公 園80・60周年を契機とし た交流人口の拡大 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	県、鹿角市及び小坂町 で設置した機能合体組 織のもと、観光振興に 連携して取り組むこと により一層の誘客促進を 図り、地域の活性化に 資する。	4,507,200	負担金	①広域観光連携推進 事業 ・岩手県と連携した広 域観光誘客キャンペ ーン(春・秋) ・青森県と連携し、国立 公園指定80周年60周 年を迎えた十和田八幡 平の魅力をメディアを通 じて露出強化を図る ②インバウンド対策事 業 ・外国人観光客受入れ の強化として観光業務 に携わる方を対象とし た語学講習(英語・韓 国語・台湾語)を実施 ・外国人留学生を対象 としたモニターツアーを 実施して鹿角応援サ ポーターの養成を実施 ・飲食店や土産店を対 象としたお店のメニュー や案内板などの翻訳サ ポートを実施 ③教育旅行誘致促進 事業 ・県外の小中学校や旅 行業者への誘致活動 ・教育旅行関係者モニ ターツアー	鹿角広域観 光推進会議 (県、鹿角市 及び小坂町)	観光客、 県外教育 関係者、 旅行事業 者、海外 旅行事業 者、PR 事業実施 地域住民 など	平成28年4月1日 平成29年5月17日	・岩手県と連携した秋 の広域観光誘客キャンペ ーン(紅葉と温泉キャンペ ーン)では、スタン プラリー参加者数が増 加。好評を得ており、紅 葉期の入込みの動機 付けとして有効であつ た。 ・主な入込み先の北海 道を中心に、地元観光 事業者とともに教育旅 行誘客を行い、新規需 要の掘り起こしと訪問 継続のセールスを行つ た。	・平成27年度実施した観 光意識調査で、岩手県及 び青森県の県境を越えた 観光客流動が多いことが 裏付けられたことから、隣 県隣接地域と連携した取 組を引き続き行う。 ・今後増加してくるインバ ウンド観光客の受入態勢 強化に取り組んで行く。 ・北海道地域からの教育 旅行誘致を更に進めて、 訪問継続と新規開拓に取 り組む。

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務 企画部	進藤隆男	地域 企画課	企画・ 十和田 八幡平 観光班	加賀谷 志保	0186-22- 0457	鹿角の“食”の磨き上げ と魅力発信 (鹿角の“食”の魅力発信)	鹿角市、小坂町、農業 団体及び商工団体等と 協働で、鹿角食材の消費 拡大に取り組むとともに、 鹿角食材を活用した誘客により交流人 口の拡大を図る。	959,130	直営	①「かつの・こさか“ん めもの”スタンプラリー」 の開催 ・期間：9月1日～11月5 日 ・対象店舗：10店舗 ・内容：鹿角特産品を使用 したランチを提供する10 店舗でのスタンプラリー ・応募口数34口、応募 枚数25枚、参加者数21 人	県	地元飲食 店、地元 食品事業 者、地域 住民、大 会参加者 等	平成28年4月1日	鹿角市、小坂町、農業団 体及び商工団体等と協働 で、今後も鹿角食材の消費 拡大に取り組むとともに、 鹿角食材を活用した誘客 により更なる交流人口の 拡大を図る。	鹿角市、小坂町、農業団 体及び商工団体等と協働 で、今後も鹿角食材の消費 拡大に取り組むとともに、 鹿角食材を活用した誘客 により更なる交流人口の 拡大を図る。
				中山英樹		平成28年4月1日～ 平成29年3月31日				②鹿角地域チャレンジ マルシェの開催 ・開催日：9月3日、4日 ・会場：秋田駅東西連 絡自由通路「ほぼろー ど」 ・参加事業者：9社 ・内容：特産品販売及 び観光PR ③鹿角ブランドでおもて なし ・内容：市町が誘致した 大規模大会等の参加 者への特産品配布と観 光PR ・実施大会等：平成28 年度公益社団法人日 本食品衛生協会北海 道・北東北ブロック大会 (6月9日)、平成28年度 東北ブロック老人クラ ブリーダー研修会(7月14 日)、こころを育む総合 フォーラム全国キャラ バン2016in鹿角八幡平 (11月19日)			平成29年5月17日		

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務 企画部	進藤隆男	地域 企画課	企画・ 十和田 八幡平 観光班	加賀谷 志保	0186-22- 0457	協働で取り組む持続可 能な地域づくり (小坂町「明治百年通り にぎわい創りプロジェクト」の推進)	小坂町の観光資源につ いて、広告媒体を通し て情報発信すること により、交流人口の拡大 と小坂鉄道レールパー クを始めとした明治百 年通りのにぎわい創出 を図る。	378,000	直営	①「鉄おも！7月号(6 月1日発売)」に小坂鉄 道レールパークの情報 を2ページ掲載。 ②「Town Joho 8月号 (7月25日発売)」に小 坂鉄道レールパークの 情報を2ページ掲載。	県	地域住民 等	平成28年4月1日	・県内外問わず、広告 媒体を通して小坂鉄道 レールパークを広くPR することができた。	平成28年度で本プロジェ クトは終了となるが、平成29 年度はフォローアップ事業 としてイベント等での観光 PRを実施する。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月17日		
総務 企画部	進藤隆男	地域 企画課	企画・ 十和田 八幡平 観光班	大場直樹	0186-22- 0457	協働で取り組む持続可 能な地域づくり (鹿角市「スキーと駅伝 のまち“賑わい創出”プ ロジェクト」のフォロー アップ)	スポーツ拠点施設整備 に伴う県内外からの選 手等の交流人口の拡 大により、地域経済の 活性化を図る。	362,906	直営	①スポーツ合宿誘致活 動の実施 ・関東学生陸上競技対 校選手権大会及び東 日本実業団陸上競技 選手権大会における誘 致活動(5月20日から22 日まで) ②スポーツ合宿ヒアリ ング調査の実施 対象：県外から訪れる 陸上競技やスキー競技 のスポーツ合宿団体 訪問団体数：5団体 実施時期：8月～H29.2 月	県	大学、実 業団等の 選手、関 係者	平成28年4月1日	・5月に誘致活動を行っ た実業団の陸上競技部 1団体が平成29年5月 に新たに鹿角市内で合 宿を行う予定。 ・誘致活動やスポーツ 合宿ヒアリング調査の 際謝礼として鹿角産 「淡雪こまち」を贈呈し 高評価を得るなど、鹿 角産品のPRにもつな がった。	引き続き鹿角市教育委員 会及び施設指定管理者と ともに合宿誘致活動を継 続していく。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月17日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
福祉 環境部	相澤 寛	健康・ 予防課	健康・ 予防班	兔澤真澄	0186-52- 3952	協働で取り組む持続可 能な地域づくり (地域一体となった生活 習慣病予防対策の推 進)	鹿角市は脳血管疾患、 特に脳梗塞による標準 化死亡比(H21～H25) が、全国を100 として 男性299、女性244と全 国及び秋田県と比較し ても非常に高く、関係機 関と連携した取組を行 うことで死亡率の減少 を目指す。	362,590	直営	①働き盛りの男性を対 象とした尿中ナトリウム 測定による食生活改善 の取組 ・尿中ナトリウム比と食事 記録を活用した食生活 改善 ・昼休みを利用した保 健指導 ・24時間採尿による食 塩摂取量及びナトリウ ム比での評価 ②給食施設での適塩給 食推進の取組 ③関係機関との連携に よる脳血管疾患減少に 向けた啓発 ④子どもの頃からの脳 血管疾患予防の啓発	県	地域住民	平成28年4月1日	①尿中食塩量は低下し なかったが、野菜や野 菜ジュース摂取増のき ざしがあり、その結果ナ トリウム比の改善傾向が 見られた。参加者の 70%が「食生活改善の コツが分かってきた」と 回答した。 ②給食担当者に、適塩 で見た目も美しく、おい しい給食を提供できる ことが理解された。 ③関係機関に、地域の 健康課題が共有され、 イベントで取り組むこと により住民にも浸透し てきた。 ④わかりやすいアニメ のDVDにより家族が脳 卒中を発症した際の対 処方法が理解されたと思 う。	・今回職域で実施した手法 を、今後市町で実施する 特定保健指導で活用でき るよう整えていきたい。 ・また、子どもを対象に 行った内容を、要望があ れば出前講座として普及 していきたい。
						平成29年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月17日		

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
農林部	高橋信明	農業振興 普及課	果樹産地 支援班	中尾学	0186-25- 3231	鹿角の“食”の磨き上げ と魅力発信 (「かつの北限の桃」の 生産拡大)	・「かつの北限の桃」の 更なる産地拡大に向 け、新規栽培者の確保 と早期の技術習得を目 指す。 ・平成26年に発生した 生育障害の主要因であ る凍害対策について試 験研究機関と連携し、 対策技術の確立と普及 を目指す。 ・「川中島白桃」以降の 品種の定着を図り、ま た産地のPR活動によ りブランド力向上を目 指す。	611,115	直営	①新規栽培者を対象と した講習会の開催 ・開催回数:12回 ・参加者数:延べ90人 ②安定生産に向けた栽 培技術向上支援 ・苗木の養成技術、改 植障害対策の実証展 示 ・凍害対策講習会の開 催および前年に実施し た現地の状況調査 ・リンゴとモモの共通防 除体系の実証 ③「かつの北限の桃」ブ ランドアップ支援 ・晩生種「さくら」の果実 調査と市場動向調査 ・他産地への視察 ・輸出促進に向けた研 修会への参加	県	JAかつ の北限の 桃生産部 会、新規 栽培者、 果樹農家	平成28年4月1日	・作業毎の定期的な講 習会の実施と、現地視 察により栽培技術の定 着が図られた。 ・凍害対策は調査した 中では約90%で何らか の対策を実施しており、 一定の周知は図られた と感じる。 ・晩生種「さくら」は、販 売時期が9月下旬～10 月上旬となることから、 その果実特性を理解し 高品質なものを主体に 販売することが重要と なる。	・新規栽培者の確保と早 期技術定着に向けた取組 は、産地基盤強化のため 今後も継続的に行う必要 がある。 ・気象災害対策(凍害、雪 害)および改植障害対策 は現地での実証等を行い 普及・定着を図る必要が ある。 ・「川中島白桃」を主体とし ながら、晩生種「さくら」の 定着を図り、8月～10月上 旬まで切れ目ない販売を 実現する必要がある。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	①宿泊施設でのかつの 牛料理提供 ・実施期間:11月25日 ～12月31日 ・実施施設:大湯温泉 組合加盟5施設 ②かつの牛振興協 議会と連携したPR活動、 加工商品開発等を支援			平成28年4月1日			・宿泊観光客にかつの 牛を味わってもらふこと で、地域特産品である ことを宿泊事業者に再 認識してもらった。 ・地域特産品であることを 説明しながら提供する ことで、利用者には 特別感を演出する効果 があった。 ・継続的な業務利用に 向けた課題を聞き取る ことができた。	・宿泊施設との連携を継 続し、地元消費拡大を推 進する。 ・「かつの牛振興協議会」 の販促活動、商品開発を 継続しながら地域ブラン ド化を支援する。	
農林部	高橋信明	農業振興 普及課	担い手・ 経営班	藤嶋智	0186-23- 3683	鹿角の“食”の磨き上げ と魅力発信 (「かつの牛」の認知度 向上)	県・鹿角市・畜産農協で 構成する「かつの牛振 興協議会」では飼養頭 数500頭を目標に増頭 に取り組んでいる。地 域特産物としてブランド 確立するため、生産拡 大と併せて「かつの牛」 の認知度向上と消費拡 大を推進する必要がある。 また、食の観光資 源として定着させること で地域活性化に資す る。	573,874	直営・ 負担金	①宿泊施設でのかつの 牛料理提供 ・実施期間:11月25日 ～12月31日 ・実施施設:大湯温泉 組合加盟5施設 ②かつの牛振興協 議会と連携したPR活動、 加工商品開発等を支援	県	地域住 民、宿泊 施設、か つ牛振 興協議会 など	平成28年4月1日	・宿泊観光客にかつの 牛を味わってもらふこと で、地域特産品である ことを宿泊事業者に再 認識してもらった。 ・地域特産品であることを 説明しながら提供する ことで、利用者には 特別感を演出する効果 があった。 ・継続的な業務利用に 向けた課題を聞き取る ことができた。	・宿泊施設との連携を継 続し、地元消費拡大を推 進する。 ・「かつの牛振興協議会」 の販促活動、商品開発を 継続しながら地域ブラン ド化を支援する。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	①宿泊施設でのかつの 牛料理提供 ・実施期間:11月25日 ～12月31日 ・実施施設:大湯温泉 組合加盟5施設 ②かつの牛振興協 議会と連携したPR活動、 加工商品開発等を支援			平成28年4月1日			・宿泊観光客にかつの 牛を味わってもらふこと で、地域特産品である ことを宿泊事業者に再 認識してもらった。 ・地域特産品であることを 説明しながら提供する ことで、利用者には 特別感を演出する効果 があった。 ・継続的な業務利用に 向けた課題を聞き取る ことができた。	・宿泊施設との連携を継 続し、地元消費拡大を推 進する。 ・「かつの牛振興協議会」 の販促活動、商品開発を 継続しながら地域ブラン ド化を支援する。	